

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 徳島県 】

学校名【 鳴門市堀江北小学校 】

1 実践テーマ	①・②・③・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全学年児童 (第1学年～第6学年 145名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (4年 総合的な学習) ② 行事名 (1～6年 秋季大運動会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4学年 社会には障がい者が生活する上で、障壁となるものに気づき、障がい者が安心して生活できる環境づくりについて考え、自分にできることを実践する。 ・第1学年～第6学年 パラスポーツやパラアスリートについて学習することを通して、障がい者問題について理解を深めるとともに、自分にできることを考える。
5 取組内容	(1) 事前学習 ○第4学年 アイマスク体験, 車いす体験, 点字学習, 人権推進委員の方の講演を通して障がい者について理解を深めた後, 環境や心の障壁について考えた。研究授業公開も行き, 4年生児童の取り組みを全教職員で共有した。



人権推進委員の久保さんをお招きして、人権の講演をしていただきました。



点字学習や車いす体験をしました。



○第1学年～第6学年（全学年）

昨年度、講師に来ていただいたパラアスリートの上原大祐さんのことやパラスポーツについて教師から話を聞いたり、知っていることを話し合ったりする時間を設けた。学習していく中で、オリンピック・パラリンピックを全校ダンスで応援することになった。



密を避けるために、全校を2グループに分けて練習しました。

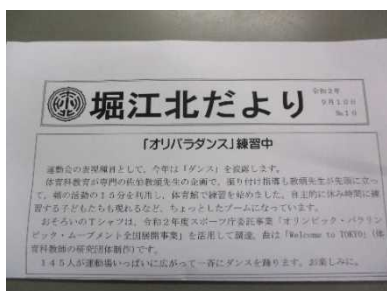
○マスコットキャラクター

児童が考えた堀江北小学校のマスコットキャラクター「ほりちゃん・きたくん」をデザインしたTシャツを作製することになった。



児童が「ほりちゃん・きたくん」を作りました。

オリパラ T シャツが完成しました。



学校だよりでオリパラダンスのことを保護者や地域に知らせました。

(2) 当日

○第1学年～第6学年（全学年）

「ほりちゃん・きたくん」のTシャツを全員で着てオリパラダンスを踊った。



異学年交流集団で心をこめて踊りました。



体が弾むと心が動く！

(3) 事後学習

○第3学年～第6学年

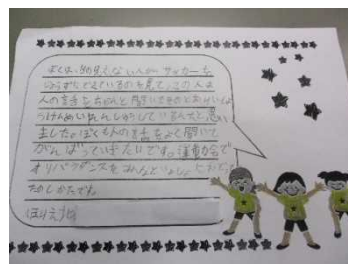
外国の選手についても学習を広げ、パラアスリートのタチアナ選手やリカルド選手のDVDを見て、すごいところを話し合ったり、「キャッチコピー」を作ったりした。



児童が書いたキャッチコピー

○第1学年～第6学年（全学年）

オリパラダンスを踊った感想を書いたり、学校だよりで運動会の様子をお知らせしたりした。



児童が書いた感想

6 主な成果

4年生では自分の身の回りの環境を見直し、ユニバーサルデザインのことをすすんで学習したりして、具体的に自分のこととして捉えられるようになった。

昨年度、児童はパラアスリートとの出会いでパラスポーツに対する理解を深め、自分たちが工夫をすることで障がいのある友達とも楽しく遊んだり、一緒にスポーツができたことを知った。今年度は、自分たちがオリパラダンスを踊ってパラアスリートを応援し、「みんなで心をひとつに踊って楽しかった。」「パラアスリートの人達をダンスで応援することができてよかった。」等の感想をもつことができ、自己有用感を高めることができた。

保護者・地域の方からは「オリパラダンス、よかったです。子供たちが一生懸命に踊る姿に感動しました。」「手足をしっかりと伸ばしてよく踊っていました。」という感想をいただいた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>本校ではスクールワイドPBSに取り組んでおり、目標とする項目に「自分を高めよう」「友達を大切にしよう」という2つがある。パラアスリートと出会い、自分たちでできることを考え、オリパラダンスを踊ることは、2つの目標と重なると考えて取り組んだ。パラアスリートの方からお聞きした「失敗を恐れずチャレンジする」「スポーツが苦手な友達がいても工夫次第でみんなできる」というお話は、スクールワイドPBSの視点からも学校ぐるみで取り組めることであり、児童の心に印象深く残った。</p>
8 主な課題等	<p>コロナの関係で事業実施の決定が遅かったのもあるが、Tシャツ作製が決まってから運動会まで時間がなかった。また、デザイン等を考えたり、児童のサイズ合わせに時間がかかったりして、担当の方に迷惑をかけたと思う。早い段階で、担当の方と打合せを行うとよかった。</p> <p>しかし、全員が「ほりちゃん・きたくん」のTシャツを着て踊る姿を見たとき、なんとも言えない喜びがあふれてきて、この事業に関わってよかったと感じた。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>2021年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催される。児童はパラリンピックを見るときに、本事業によって体験し、気づき、学んだことを想起するだろう。来年度も運動会や交流等で「ほりちゃん・きたくん」のTシャツを着て全校でオリパラダンスを踊り、アスリートの皆さんを応援していきたい。また、総合的な学習単元として取り組んだ4年生児童は高学年となるので、本事業から学んだことを実践していくとともに、学びを次の学年へと引き継いでいく。本事業のことを基盤に置きながら、多様性を認め合い、主体的に行動する力をもった児童を育成していきたい。</p>